

平成26年(2014年)6月12日
山口県病虫害防除所

1 病虫害名 コナカイガラムシ類の一種 学名：*Planococcus* sp.

2 作物名 バラ(施設栽培)

3 特殊報の内容 新発生

4 発生経過

(1) 発生確認月日：平成26年2月21日

(2) 発生地域：防府市

(3) 発生状況

防府市の施設栽培バラで、幹や葉に寄生するコナカイガラムシ類を確認した。農林水産省神戸植物防疫所に同定を依頼したところ、従来から日本で発生しているミカンコナカイガラムシ(*Planococcus citri*)と類似するが同一とは判定できない個体を確認された。

5 本虫の特徴

(1) 被害の特徴

成幼虫は枝や葉に寄生し、枝や葉には成幼虫とともに白いロウ物質で覆われた卵のうが付着する。多発した株では、枝枯れ症状が発生する。

葉や株元は、排泄された甘露にすす病が発生し、黒く汚れる(図1、図2)。

(2) 形態

雌成虫は、翅を欠き、長楕円形で体長3mm程度である。体色は燈黄色で、体表は白色粉状のロウ物質で覆われる。形態はミカンコナカイガラムシ(*P. citri*)と非常によく似ているが、背中線の燈黄色の縦線は不明瞭である。体周縁のロウ物質の突起は短く、18対ある。

雄成虫は、1対の翅を持ち、尾端に2本の長い白色毛を持つ。

(3) 生態

ア 本虫は、露地では年間7~8世代発生し、施設内では一年中世代を繰り返すと考えられる。幼虫、成虫とも歩行して寄生場所を移動する。

イ 2齢幼虫の終わりに、雄では繭を作り、成虫となる。

6 防除対策

(1) 耕種的防除

ア 苗を購入する際は、病虫害の付着がないものを選択する。

イ 本種は寄主範囲が広く、観葉植物や雑草などにも寄生する可能性があるため、これらの植物の持ち込みを控え、施設内外の除草に努める。

ウ 成幼虫、卵のうをブラシ等でこすり落とし、施設外に持ち出し土中に埋めるなど適切に処分する。

(2) 薬剤防除

バラのカイガラムシ類に登録のあるアクテリック乳剤で防除する。

注) コナカイガラムシとは：カメムシ目コナカイガラムシ科の昆虫で、日本ではミカンコナカイガラムシ(*P. citri*)、フジコナカイガラムシ(*P. kraunhiaae*)など、施設栽培の花き類、野菜類、果樹類等で害虫となっている種が含まれる。



図1 成幼虫の寄生と枝枯れ被害



図2 甘露に発生したすす病



図3 雌成虫（下）と卵のう（上）



図4 幼虫（3齡）



図5 雄成虫